

第6回地域福祉計画策定・普及推進委員会議事録

会議の名称	平成30年度第6回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	平成30年11月13日(火) 午後7時から午後9時
開催場所	保谷庁舎2階第1会議室
出席者	【委員】熊田委員(委員長)、伊藤委員(副委員長)、滝沢委員、篠宮委員、妻屋委員、中野委員、渡辺委員、小野委員 (欠席者)中村委員、櫻井委員 【事務局】健康福祉部長、生活福祉課長、生活福祉課3名
議題	1 開会 2 議題 (1) 前回会議録の確認について (2) 前回までの会議での意見反映箇所の確認について (素案 第1章から第3章、および第5章) (3) 重点的な取り組みについて(素案 第4章) (4) 計画の評価指標について(素案 第6章) (5) 基本理念について(素案 第3章) (6) その他
会議資料の名称	資料1 平成30年度第5回委員会会議録(案) 資料2 第4期西東京市地域福祉計画 素案
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 前回会議録の確認について</p> <p>○ 事務局 ———資料1に沿って説明———</p> <p>○ 委員長 前回会議録について、修正、ご意見等はないか。</p> <p>○ 委員 3ページの「そもそも」で始まる委員長の発言の、一番下の「4助」とは何か。</p> <p>○ 委員長 公助、共助、互助、自助の4つの助ということである。</p>	

○ 委員長

他に無いようなので、これで、会議録を確定する。

(2) 前回までの会議での意見反映箇所の確認について
(素案 第1章から第3章、および第5章)

○ 事務局 —————資料2に沿って説明—————

○ 委員

まず、1ページに、「市民・福祉関係団体・社会福祉協議会・行政などがそれぞれ役割を持って、地域福祉の取り組みを進めます」を、例えば、「それぞれ役割を果たしながら、ネットワーク豊かに充実した地域社会の推進に取り組みます」などとしてはどうか。

次に、6ページの点線囲いのところについて、4助についての裏付けや、3期計画とは違うところを点線囲いの中に書き込んでいただいたが、まず、「第3期計画までは……」という、3期までの計画ではこうだったということを書いて、その後に「国の定義」を書いたほうがいいのではないか。

次に、22ページの図の中の「地域」の文章について、「地域の中で困りごとに気付き、地域の中で解決するしくみづくり」とあるが、地域の中だけに限定した閉鎖的なイメージになっているので、例えば「地域の人々の困りごとに気付き、地域のみんで考え、ネットワーク豊かに解決するしくみづくり」のような、いろいろな人が関わって、友好的なつながりの中で問題が解けるという表現にしてはどうか。

最後に、29ページの、「施策の展開」の見方の説明について、2つ目の吹き出しの「下段については、個人や地域の中で話し合い、書き込んでいけるスペースです」という表現は違和感がある。市民の皆さんで考えて書き込んでみましょうということならば、もう少し語りかける形のほうがいいのではないか。例えば、「下段は市民の皆さんが施策を身近に感じていただくためのスペースです。地域で取り組める具体策を書き込んでみてください」などとすると、市民が一步踏み出しやすいのではないかと思った。

○ 委員長

1ページについては、提案をベースにして修正していただければと思う。

次に、6ページの「国の定義」の囲いの中について、「第3期までは」という部分をはじめにして、第4期は国の定義で新たに4つになったという書き方にしたほうがいいのかというご意見だったが、いかがか。

○ 委員

「第3期計画までは、「自助・共助・公助」の3つの区分で記載をしていましたが、本計画では下記の……」と書いて、その後に国の定義で4つになったと書いたほうが分かりや

すいと思う。

○ 委員長

確かに、そのほうが読みやすいと思うので、そのように修正していただければと思う。

次に、22 ページの「地域」の文章についてご提案があった。ここは構造上、「地域」と「行政・専門機関」を対比関係で描かれていて、上の地域と下の行政・専門機関が一体的に行っていくという描き方になっている。その中の地域の部分について、「地域の人々の困りごとに気付き、地域のみんなで考え、ネットワーク豊かに解決するしくみづくり」としてはどうかというご提案だが、いかがか。

○ 委員

「地域の中で」が繰り返し出てきて閉鎖的な感じがしたので、地域の人たちの関係を膨らませたいと考え、この提案をした。

○ 委員

地域の中の困りごとには、地域住民同士だけでは解決できないこともたくさんあると思うが、「解決する」しか書いていないと、全部地域でやりなさいと言われていたような捉え方をされる可能性もある。そこで、例えば「解決したり、つないだりするしくみづくり」のように、「つなぐ」という言葉が入っているといいのではないか。

○ 委員長

解決だけではなく、しかるべきところにつないでいくというのも大事な役割だということを強調してはどうかというご意見だと思う。確かに、行政・専門機関のほうには「解決」という言葉がなく、解決は地域側でして、それを専門機関が支援すると読み取られるおそれがあるので、「つなぐ」というキーワードを加える形で整理していただければと思う。

○ 委員

健康課から「生きる支援」という表現が新たに示されているので、40 ページの「市が取り組むこと」の2行目と②の「自殺対策」の後ろに、括弧書きで「生きる支援」と入れてはどうか。

○ 委員長

自殺対策ではなく「自殺予防対策」と修正していただきたい。そして、「生きる支援」という表現も、市として出されていることなので、括弧書きで入れていただければと思う。

○ 委員

47 ページの「市が取り組むこと」の2行目に「防災コミュニティづくりを進めます」とあるが、災害時に特化したコミュニティづくりではなく、普段の地域コミュニティが活性化しているとか、つながりが強いことがいざという時に生きる、というのが防災の考え方なので、この言葉としては、「災害時にも助け合えるようなコミュニティづくりを平常時から進めます」のようなニュアンスのほうが良いと思う。

○ 委員長

では、防災コミュニティという新しいコミュニティをつくるのではなく、日頃からのつながりづくりをしっかりとやるというニュアンスに修正していただければと思う。

○ 委員

23 ページの「基本方針」の(2)のタイトルの最後が「充実します」となっているが、正しくは「充実させます」ではないか。

○ 事務局

正しい表現を確認する。

○ 副委員長

(2)の本文の1行目に、「支援が必要に結びついていない人を把握し」とあるが、日本語がおかしい。

○ 事務局

「必要な支援に結びついていない人を把握し」に修正する。

○ 委員長

細かく見ると修正が必要なところがまだあると思う。もう一回各委員で目を通していただき、お気付きの点があれば、今週末までに事務局にお寄せいただくようお願いする。

(3) 重点的な取り組みについて (素案 第4章)

○ 事務局 ——資料2に沿って説明——

○ 委員長

西東京市の保健福祉審議会から、生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーター等を持っているネットワークをもう一回見直す必要があるという答申を受けて、今回、この計画作りに臨んでいるわけだが、それぞれのネットワークにそれぞれの住民が関わっておられ、その住民の意思を無視した形で勝手に統廃合することはできないので、時間を

かけて検討するようにしたい。また、庁舎が移転する関係もあって、2年間という記載はせずに、少しぼかした書き方にしたいというのが、今回の事務局の提案である。

28 ページの「情報発信の工夫」のところの、「オウンドメディア」「ペイドメディア」「アーンドメディア」というのは、整理としては分かるが、何か引っ掛かる。自分が所有しているメディアで発信する、お金を払って発信する、他者の力を借りて発信するというのはメディアの形態の話なので、そこにどういう情報を載せるかといった、情報の内容についての記載もあるといいのではないか。

○ 委員

今まではアナログ的だったが、これからの世の中はいろいろな情報の取り方があるということを提案されているのだと思う。ここの内容はとても勉強になった。ただ、「オウンドメディアとなっていました」と既成事実の中で書かれると、市民感覚とは遠く感じるので、例えば、オウンドメディアと呼ばれるものはこうで、アーンドメディアと言われるものはこうです、ということを入れてはどうか。

また、地区懇談会の時に、市による福祉の掲示板ではなく、ご近所の情報が流せる地域の掲示板をつくと、直接話をしなくても地域の皆さんの動きが分かるのでいいのではないかという提案があった。

○ 委員長

「オウンドメディア」等の言い方は、私も初めて聞いた言葉で、勉強になった。ただ、これは今後の西東京の情報戦略みたいなものを整理しただけで、だからどうするということが見えない。市民の方がこれを読まれた時にも、引っ掛かる感じがあるだろうと思うので、アーンドメディアをどうやって広げていくのかとか、アーンドメディアの充実の方向性が見えるように書くなど、もう少し工夫していただければと思う。

○ 委員

まず、片仮名が多くて分かりにくい。

それから、「情報発信の工夫」に力を入れなければいけない理由は、20 ページに課題として書かれていることだと思うが、そこが一番下に書かれている、「受ける側の立場に立った発信の工夫が必要です」というところへの示しが足りないのではないか。「オウンドメディア」「ペイドメディア」「アーンドメディア」というのは発信する側の都合で、つまり、メディアミックスをしていって、いかに情報が発信できるかという視点の話である。情報を受ける側の視点の話は、下段の「地域内の共有」というところでカバーしているつもりかもしれないが、「現状の情報発信」のところでももう少し受ける側の度合いを大きく出すと、すっとんと落ちるようになるのではないかと思う。

○ 委員長

この文面は、あくまでも発信する側がこういうメディアを持っていることが大事ということしか書かれておらず、利用サイドの話が見えない。受けるサイドとして、これらがどういう意味を持つのか、情報が住民にどう届くのか、どういう情報だったらアーンドメディアで受けたほうがいいのかといった、住民主体でのメディアの書き方をもう少し検討していただければ思う。

○ 委員

25 ページの、第4章で重点的な取り組みを扱うにあたってのリード文について、第2章からいきなり第4章につなげられていて唐突な感じがするので、第3章とのつながりにも少し触れておいたほうがいいのではないかと。

○ 委員長

第3章と第4章のつながりが見えないというご指摘である。なぜ第4章の重点的な取り組みを導き出したのかというところがいまひとつ見えないというのは、ご指摘のとおりだと思うので、もう少しその関係性を明確に出していただければと思う。

○ 事務局

おっしゃるとおりだと思う。ご指摘を踏まえてリード文を修正したい。

○ 委員

併せて、課題はこの3つだけではないと思うので、「特に大きな3つの課題が浮かび上がってきました」といった書き方にしてはどうか。

○ 副委員長

1 ページのところにも、この3つが出ていて、唐突感がある。これを第4章で具体的に取り扱いしていくということだと思うが、1 ページの書き方も少し見直したほうがいいのではないかと。そもそも、この3つに限定してよかったのか。

○ 委員長

1 ページについては、当然課題は幾つもある中で、特に第4期で力を入れるのはこの3つですという、全体のストーリーのサマリーみたいなものと私は捉えている。論文でもそうだが、サマリーのところでは細かく理論的な説明はしないので、1 ページについてはこれでいいと思う。

○ 事務局

ここで課題として取り上げている3点については、アンケートもそうだが、特に地区懇談会で、どこの地区でもこの3つの課題が必ず挙がってきたので、第3期から引き続きとなるが、やはり重大な課題だということで取り上げている。

○ 委員長

第3章の中で、なぜこれなのかというところが分かりにくいから意見が出ているのだろうと思う。そこの接続をきれいにしておかないと、市民が読んだ時にも、なぜこの3つなのか、もっと他にもやることがあるのではないかという話が出てくると思うので、検討していただきたい。

○ 委員

27 ページの、「現状の相談体制」の最後の「相談量は増えてきましたが、地域に根差した活動をしている人以外からの認知度は低い現状です」という文章について、結局、関わっている人しか知らなくて、あとの人は知らないという書き方で、置き換えられる言葉を検討していただければと思う。

○ 委員長

活動している人は知っていて当たり前だし、そこに遠い人、直接関わらない人の認知度が低いというのもそのとおりだと思う。ただ、こういう表現でいいのかというご指摘だと思う。例えば、「今後は地域に根差した活動をしている人以外の認知度も上げていく必要がある」という言い方ではどうか。

○ 副委員長

「地域活動をしている人」という表現にするといいのではないかな。

○ 委員長

では、ここは「根差した」を削除して、「地域活動をしている人」という表現に修正することとする。

○ 副委員長

26 ページの「現状のつながりづくり」の2段落目に、「近年では、それらのしくみに頼らない市民の自主的な活動が活性化してきているほか、類似のコーディネーターやネットワークで増えてきている状況です」とあるが、「しくみに頼らない」という表現は不要ではないか。また、「類似のコーディネーターやネットワーク」というのは、何の類似なのか。ほっとネット等の類似ということか。

○ 委員長

この「類似」は、生活支援コーディネーター、地域コーディネーターや、教育関係のコーディネーターなど、いろいろなコーディネーターがいて分かりにくいという意見が地域懇談会で出ていたので、そこを反映された表現なのだろうと思う。

○ 副委員長

そうであれば、前半は、いわゆる公的な仕組みとは別の自主的な活動が生まれているという文章で、後半は、生活支援コーディネーター等の、地域の活動に関わるコーディネーターとかネットワークの話になって、文章が繋がらない。

○ 委員長

例えば、しくみに頼らない市民の自主的な活動とは何かとか、類似のコーディネーターとは何かという例示があれば、分かりやすいのではないか。

類似のコーディネーターというのは、先ほど私が言ったようなコーディネーターという理解でよいか。

○ 事務局

そうである。

○ 副委員長

そうであれば、前半の文章と重複するのではないか。

○ 委員長

活性化してきているが、それが増え過ぎてしまって、よく分からなくなっているというストーリーなのだろうと私は理解している。

「それらのしくみに頼らない市民の自主的な活動」という部分は何のことを言っているのか。

○ 事務局

市の事業で進めているものではない、地域の方々が自主的に取り組んでいただいている取り組みである。具体的には、その図の一番下のところに書いている、放課後カフェ等の取り組みを指している。

○ 委員長

そうであれば、「放課後カフェや子ども食堂など」という例示を入れると分かりやすいと思う。後段の「類似のコーディネーター」についても、下の図に入っている例を、文章の

中にも入れておいたほうがいいと思う。

○ 委員

「現状のつながりづくり」でいろいろなネットワークづくりに取り組んできたが、類似のネットワークが増えてきているという書き方のほうが分かりやすいと思う。その間に、子ども食堂とか放課後カフェを入れると、かえって分かりにくくなってしまうように思う。つまり、「つながりづくりに取り組んできましたが、さまざまなコーディネーターやネットワークが増えてきてしまって、分かりづらいという声も聞きます」というふうに一回切って、「近年では、それらのネットワークとは別に、こども食堂など、新たな自主的な活動が活性化してきています」と、分けて言ったほうが、伝えたいところが伝わるし、下の図も理解しやすいと思う。

○ 副委員長

確かにここでは、市のネットワークは整理する、市民独自の活動は活性化させていくという、2つのことを言っているのだから、そこを明確に書くといいと思う。今の書き方では、市民独自の活動まで整理されるようにも読めてしまう。

○ 委員長

それでは、ここは、「第1段落のように頑張ってきて来た。ただ、たくさん増えてきて、見えにくくなってきている。一方で、そういう仕組みに頼らないような市民の子ども食堂や放課後カフェのような取り組みも広がってきているので、そういったところとどう連携してやっていくかが今後の市の課題である」という書き方にしていただければと思う。確かに、流れとしてはそのほうが読みやすいと思った。

(4) 計画の評価指標について (素案 第6章)

○ 事務局 —————資料2に沿って説明—————

○ 委員長

作った計画は評価しないといけないが、どういう形で評価するかが非常に難しい。今回、A案、B案を示していただいているが、ご意見等はないか。「市政モニター制度」というのは、そもそもどういうことをしているのか。

○ 事務局

モニターとして登録していただいた方に、市政に関するさまざまなテーマで調査を行っている。例えば、平成29年度に実施したのは、「教育の方法と生涯学習について」「職員の接遇について」「市内の農業について」、今年度では「オリンピックについて」等の調査を

行っている。担当課に確認したところ、定期的に地域福祉のテーマで調査を行うこともできるという返答を頂いたので、活用できる可能性は十分ある。

○ 委員長

アンケートをその 100 人に対して送るということは、つまり、1 人が 1% で測っていくというイメージか。例えば、一番目の「近所との交流が少ないと感じる人」の目標値を 30% と決めて、そう感じている人が 25 人だった場合は、目標をクリアしたという理解になるということか。

○ 事務局

1 つ目の目標値で言えば、そういうことになる。

○ 委員

市政モニターは、こちらから声を掛けて、手を挙げた市民たちなので、少なくともこういうテーマに関心があると思う。無関心な人は手を挙げないので、そこで 1 つのフィルターを通過してきた人ということになる。先ほどの重点課題の中に、本当に届けたい人には情報が流れないという項目があったが、市政モニターは真逆の人たちであり、少し偏りが出てしまうのではないか。総合的にいろいろな意見を聞く場面であればいいが、地域福祉という、問題が明確になっているものに対するモニターとしてはいかがかなと思う。

また、この計画に対して責任を持った答えを頂きたいわけだが、市民の方のモニターにはこの計画とは無縁な方もいると思うので、A 案のほうがいいと考える。

○ 委員

前回の会議の中で、定期的に聞いている項目があれば、それを 1 つの指標として評価することができるのではないかというニュアンスの意見を言ったと思うが、例えば 56 ページの、アンケート調査で近所との交流が少ないと答えた人の 30.0% というのは、地域福祉に関するアンケート調査結果の中から抽出したのか。

○ 事務局

そうである。

○ 委員

この委員会が始まった時に基礎的な調査の資料を頂いた。その中で、平成 20 年、24 年、29 年で、同じ設問項目で継続しているものは、それぞれの数値が抽出できる。市政モニターがいきなり出てくると、答える人の色合いも変わってくるし、継続性が見えなくなってしまう。それよりも、この地域福祉計画を策定する段階で採るアンケートに答えた人の数

字を、数値として引き継いでいくべきだと思う。

○ 委員長

もし、今回市政モニターを導入することになった場合は、市政モニターにしかできないことを考えるべきだと思う。例えば、「近隣との交流が少ない」は、今回は 30%だが、次の市民アンケートで 25%になっていれば、今回の計画の取り組みが影響力を持ったと言える。一方、市政モニターは市政に対して意見を寄せるということが役割なので、地域福祉計画を策定するためのアンケートのミニチュア版ではなく、何かこの人たちしかできないこと、例えば、アウトカム評価をもらって、アンケートのデータと立体的に組み合わせるとか、総論的、あるいは大局的なところで、この 100 人の力を得られる仕掛けをつくるなど、この人たちにしかできない役割を担っていただくことを検討する必要があると思う。

○ 委員

それも面白いアイデアだと思うが、地区懇談会という、たくさんの人に参加していただいて、回数を重ねながら何年も続けている。

もし市政モニターを使うのであれば、委員長がおっしゃったように、地区懇談会とは真逆の人たちに声を掛けて、あそこでは救えない市民層の意見を聞くといいと思う。懇談会はどちらかという私たち世代の人とか、いわゆる福祉に関係ある人が多いので、それとは違うところで何が出てくるかというのは、面白いとは思う。

○ 委員長

福祉に全然関心がない人はアンケートを送っても返ってこないと思うので、定点観測のように街角に立って、その場でアンケートに答えてもらってデータを集めるというやり方もあるが、その方法をとれるかどうかだと思う。地域懇談会は市や社協に協力的な人が集まっていることは間違いない。市政モニターも市政に関心がある人がエントリーしてきていると考えれば、多かれ少なかれ関心のある人からしか情報が取れないので、こういうやり方の限界だと思う。関心がない人がどう思っているかを知るためには、関心がない人の所にアウトリーチするしかない。ただ、それは非常に手間が掛かるし、信憑性があるかどうか分からない。

○ 委員

その地域に住んでいる人の意見を聞くということは大事だと思う。地区懇談会は、5年に1回という形で今まで何回もやってきた。そこでは普段地域で困っていることを発表されているから、そこで吸い上げた意見を反映したほうがいいと私は思う。

○ 委員長

手間をかけてよければ、地域福祉計画モニターという形で、例えば地域懇談会で協力してくれた人に声を掛けて、この計画に特化したモニターを集めて組織化し、動かしていくというやり方をすれば、関心のない人にアプローチするよりは、西東京市が良くなったかどうか分かると思う。ただ、そこまでの手間をかけることは難しい。

○ 副委員長

私は、ぜひ手間をかけてもらいたいと思う。こういう評価には2つの種類の調査が必要だと思っている。1つは、一般市民の考えを聞くもので、無作為で、毎回同じ質問で実施する。これについては、一般的な意見が聞けるので、回答する対象者が変わっても問題ない。もう1つは、意識の高い人や関心を寄せている人の意見を聞く調査で、それが地区懇談会にあたると思う。地区懇談会には名前と住所を公開して来てくださっているし、地域福祉計画を前提に開催しているものなので、そこで毎回アンケートをしていただくと思う。この2つの調査により、一般的な評価と関心のある人の評価を比べることができる。

○ 委員長

今の意見について、事務局、いかがか。

○ 事務局

次期の第5期計画を策定する際にも、恐らく、同じ規模で同種の市民アンケートも行い、地区懇談会のような形での意見の吸い上げも行っていこうと考えている。

今回、市政モニター制度の提案をしたのは、例えば、この5年の間の中間年とか、1年ごとといったところで、比較的予算も手間もかからない形での意識調査として活用できないかという提案である。

○ 委員長

少し整理すると、まず、数値化できることは数値化するという理解でよろしいか。つまり、数年後、次の策定のための調査が行われる時に、その項目の数値が上がっているか、下がっているかが見られる設問を設定しておいて、その結果を分析していくという方法で、例えば、サロンを各圏域に10カ所、4圏域で40カ所という目標を設定して、それが実際にできたかどうかで測るというやり方である。

もう1つの案は、市政モニターを活用して年度ごと等で聞いていくというやり方で、これについては、地域懇談会に関わってくれた方々をモニター化して、そこで年度ごとに聞くということも不可能ではないと思う。ただ、それには手間がかかるので、そこをどう考えるかだと思う。こういう形での測り方、見せ方をすることについては、総論としては委員の皆様もOKだと思う。こういうデータはこのように測るとか、こういうところはこうい

う形でデータを収集するなど、もう少し詰めたものを次回に出していただいて、そこで最終的に決するという形でよいか。

○ 委員

我々は目標値も決めるのか。

○ 事務局

目標値は担当課に確認しながら入れていく。次回には目標値を入れた形でお示しする予定である。

(5) 基本理念について (素案 第3章)

○ 事務局 —————資料2に沿って説明—————

○ 委員長

サブタイトルは、「つながり、相談、情報に強いまち」ではどうか。つまり、サブタイトルに重点課題のキーワードを全部入れるという形である。今後の計画策定の際も、重点課題のキーワードを副題に必ずはめ込むというようなルールをつくっておくといいのではないか。

○ 委員

1つは、基本方針として、協働によって地域福祉を推進するという点をアピールするために、「市民参画×協働は暮らしやすいまちづくり」はどうか。

もしくは、市民が主体でまちが動くという文章があるので、「居場所と出番とつながりづくり」はどうか。

あるいは、地域福祉というと高齢者のイメージが強いと思うので、高齢者だけではなく市民みんなの問題なのだということをアピールするために、「老若男女市民全てに居場所と出番を」としてはどうか。

○ 委員長

他はいかがか。これは次回も検討できるということで、今回はキーワード等を出していただき、次回にそれを見ながら決めるという形になるかと思う。これが今回の計画の中で大事というご意見はないか。

なければ、ここのキーワード、キャッチフレーズは宿題とさせていただきたい。幾つか出していただき、事務局で整理していただいて、次回にそれを見ながら検討したいと思う。

(6) その他

○ 事務局

本日も熱心な議論をいただき、お礼申し上げます。

次回の第7回委員会は、12月4日火曜日19時より保谷庁舎2階の会議室で開催する。

○ 委員長

以上で第6回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会を終了する。

閉会